

天理時報

発行所 奈良県天理市三島町271番地 郵便番号632
天理教道友社
電話(0743)511(内代表) 1850円
郵便振替口座大阪6-10367番 3,600円
(本紙定価) 1,800円
一年(送料共) 1,800円
半年(送料共) 1,000円
創立 100周年



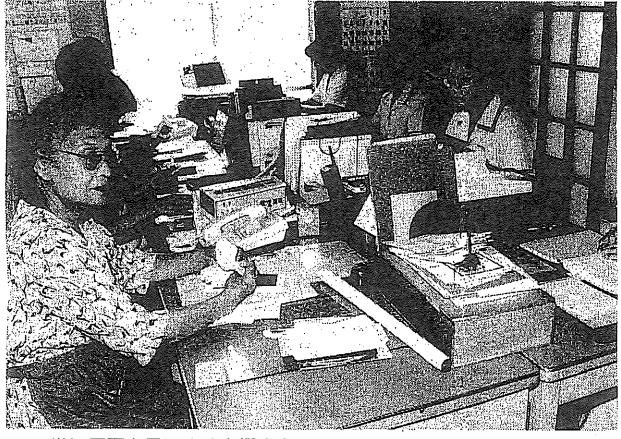
おやりのことば

連れに来るのも親神なら、呼びに来るのも親神や。ふしから大きいなるのやで。
言葉の迫るまじいこの世業、賢業への道は出せ、賢業への道もすへ親神かしていき。親神の御事業の業は神の御業を御れ、と困窮に思ふ「ふし」から、新しい発展の身出すと明る説かれた。
「第1天理教祖伝」第9章「御西分」より

「ともに生きる」老婦人の半生



この事業を始めたのは昭和三十年だから、すでに四十年近くになる。「人さまのためにやるような仕事をしたい」と、熱心な天理



▲▲常に周囲を思いやる本郷さん(左)は、事務員から「親」のように慕われて(9月12日、家政婦紹介所)
▶▶74歳を迎えて「人のために教を重ねること」と言ふそしむ祖の教えがわかってくる

ろから東京はB29爆撃機の空襲にさらされて夫は爆死。郷里の福島県に疎開していた本郷さんと一人息子が残された。終戦後の社会で、子連れの戦争未亡人が生き抜くのは容易なことではなかった。三鷹駅前不動産を営んでいた次兄の元へ身を寄せ、働いて収入をかせぎ、家政婦紹介事業を思

高齡化社会、障害者問題など福祉の課題は尽きない。だが、どれほど対策が進められても、ともに生きる心、が伴わなければ空振り

なにかよろづのたすけあい、むねのうちよりしあんせよ
(みかぐらうた 四下り目七)

に終わり、施策の枠からはじき出される人々が常に存在し続ける。東京都三鷹市で家政婦紹介所を営む本郷伸枝さん(74歳、東中心分

母親は四十代の末に夫に先立たれ、次いで四人の子供のうち長男が肺結核で倒れた時に信仰を求めた。病身の長男を看病しながら、子供たちを育てるため下宿屋を営んだり、裁縫の内職を続けたりしながら糊口をたたく(つ)をしのいだ。だが、その努力もむなしく、長男は二十七歳でこの世を去り、同じ病で母親も五十九歳で中絶した。孤獨と逆境の中で、形の上では何一つ報われない姿でありながら、人間は自分だけの幸せを求めず、決して幸福にほなれません。人のために

「教祖なら……」を心の支えに

大正洋戦争中の時代に二十一歳で結婚。新婚間もなく夫はシナオ島へ出征、二年後に無事帰還して一子が誕生したが、このころから東京はB29爆撃機の空襲にさらされて夫は爆死。郷里の福島県に疎開していた本郷さんと一人息子が残された。終戦後の社会で、子連れの戦争未亡人が生き抜くのは容易なことではなかった。三鷹駅前不動産を営んでいた次兄の元へ身を寄せ、働いて収入をかせぎ、家政婦紹介事業を思

身を埋める決心がきました。昭和四十三年、現の鉄筋四層建てのビルを建築。一階の事務所には神様まつり、月に一度の講社祭には事務員も参加する。さまざま事情から、これまで長期にわたって預かった人はおおよそ三十人、本郷さんの導きにより修業料を終えた人は二十五人を超える。

「所長さんは自分にとっても厳しいが、周囲の人には非常に優しい人です。いつも人に親切に接して、いかに言われます。」「話すと、約三十年間ここに家族の一員として任せている。元は家政婦をしていたが高齢で働けなくなり、身寄りがなかった。六年間、通いで事務を務めるBさん(63歳)は、生活の上で何か大切なことを常に指導して下さいます。言葉一つひとつでも、人を導くような心に敬意をこめておられるように感じます。」